東播用水土地改良区の水源地保全活動
Conserving water resources by TOBAN-YOSUI LID

福田　信幸
Nobuyuki FUKUDA

1. はじめに

東播用水は、兵庫県の南中央部を瀬戸内海に注ぐ県下最大の一級河川加古川下流東部に位置する東播磨地域と神戸市の北部の約 7,313 haを受益地として抱え、世界かんがい施設遺産「淡山疏水」に関係する地区である。

東播用水は、加古川支流の篠山川、東条川、山田川に建設したダムを導水路で連結することにより用水を確保し、受益地に点在するため池に補給する水利システムで、最も重要な水源施設として位置づけているのは篠山川から取水する川代ダムである。

ダムなどの基幹施設は、加古川水系広域農業水利施設総合管理事業によって、近畿農政局が管理し、土地改良区はため池に補給するまでの管理を行っている。

受益地域と水源地域の位置

2. バスツアーから間伐体験へ、いざ里山へ

水源地、篠山市とのお付き合いは、川代ダム建設前から継続しているが、約 22 年前から「東播用水源流ミニツアー」などのバスツアーを行っている。

また、約 10 年前から川代ダム流域の里山の管理に目を向け、篠山市森林組合との交流や川代ダム直上流の黒田自治会との連携、協働による桜の植樹などによる環境保全活動を進めてきたが、里山の水環境を改善するための活動ではなかったため、里山の環境を良くしようとする「丹波篠山木の駅実行委員会」との連携による間伐を進めてきたところである。

東播用水土地改良区の里山保全活動を行う基本理念は、「水を欲する者は、自ら水を創る。」としている。

3. 水源地の里山保全活動の始まり

本格的な里山保全作業は、危険が伴うことから、「間伐体験」から始め、より多くの参加を募りながら、将来は本格的な間伐作業につなげるという方針で始めた。

イベント名：「東播用水水源地里地・里山保全活動in西紀」
実施日：平成 26 年 11 月 23 日（日）8 時 50 分現地集合
場　所：篠山市東木之部地内の里山
主催者：東播用水土地改良区（ＴＴ未来遺産運動事務局）
連　携：丹波篠山木の駅実行委員会

東播用水土地改良区　TOBAN-YOSUI Land Improvement District　農村景観，環境保全，水環境

協　力：水土里サポート近畿

参加者：38 名（内、主催者呼び掛けによる参加者数 29 名）

作　業：約 2 時間

間伐作業要領を研修中の状況

参加者は、4 班に別れ、指導者が付き、山中に入り、伐採する木や道具の使い方、作業時の注意事項の説明を受け伐採作業を開始した。

作業開始後、概ね 1 時間が経過する頃に休憩、その時間を利用して実行委員会の代表によるチェーンソーを使った伐採作業が披露され、参加者は手際良い作業に驚かされた。

作業が進むにつれ、薄暗かった山肌が明るくなり、我々の稚拙な伐採でも里山の環境が大きく変わるものだと感心した。

4. 報道の取材

「東播用水水源地里地・里山保全活動in西紀」の実施日が決定した時に、我々の活動が水源地域住民や下流の利水地域の住民にも伝わるよう地元紙「神戸新聞」（丹波総局篠山支局）に東播用水概要や今回のイベントの企画書を持ち込み、取材を申し入れ、現地取材を受け、神戸新聞（丹波篠山版 11 月 24 日、東播版 11 月 26 日）に活動の状況が紹介された。

更に、平成 27 年 1 月 22 日の 17 時 20 分頃から関西テレビのニュース番組「スーパーニュースアンカー」の「リアル」というコーナーで短時間ではあったが放映された。

014年（平成26年）11月24日　月曜日　神戸新聞

篠山の豊かな水守る

農業に使う市民ら間伐

川代ダムの里山

農地約7400㌶に水を送る川代ダム（篠山市大山下）の水源である森林を守ろうと、東播磨など受水地域で農業用水を使う市民ら約30人が23日、同市東木之部の里山で間伐作業をした。参加者は「水が潤沢にあるのは篠山の森のおかげ。保水力のある水源づくりを手伝いたい」と汗を流した。（井垣和子、安福直剛）

川代ダムからは、神戸市北区と西区の一部や三木市、明石市西部、加古川市東部、稲美町に送水。生産量全国一を誇る酒米「山田錦」や神戸ワインの原料となるブドウの栽培にも使われている。

東播などから30人が参加「地元と交流、継続へ」

その約370㌔にわたる水路などを管理している東播用水土地改良区（三木市）などが、間伐活動を初めて企画。受水地域の関係団体などに呼び掛け、実現した。

参加者は、木材の再利用などに取り組む市民グループ「丹波篠山木の駅実行委員会」のメンバーに教わり作業を進めた。ヘルメットや軍手を身に着け、鎌やなたで細い樹木を伐採。切り方によって木の倒れる方向が変わるため、安全に配慮しながら取り組んだ。

同土地改良区の福田信幸参事は「いつも篠山の水を使わせてもらっており、少しでもお役に立てれば。地元の住民と交流しながら、活動を続けていきたい」と話した。

水源を守るため間伐作業をする参加者＝篠山市東木之部

神戸新聞（丹波篠山版）記事

2014.11.24

5. 今後の展望

水源地における間伐体験は、東播用水土地改良区にとっては、1 つのチャレンジである。

国内の大規模な土地改良区では水源林を所有するなど、自ら水を創り出すことを行っているところがあるが、東播用水土地改良区にはまだその力量がない。そうすればどの様な行動をとって、自ら水を創り出せるか、やはり水源地域の人々の理解と協力を得ることが早道であろうと考えた。

これまでのチャレンジでは、東播用水土地改良事業に関わった先輩方や関係して頂いている団体の方々のご協力を仰いできたが、将来的にはため池管理者などの受益者が直接間伐などの保全管理作業を展開する姿を描いている。

平成 29 年には間伐の体験から実施にグレードアップしているが、ため池管理者がより多く参加するよう体制強化を図りたい。

＊丹波篠山木の駅実行委員会及び東播用水土地改良区（TT 未来遺産運動計画等）の詳細については、それぞれのホームページ等を検索し閲覧してください。